

# なし新品種「おりひめ」で効果的な 2 つの花芽着生方法

## 1. 成果の要約

なし新品種「おりひめ」は、①冬期に先端を短く切り戻し（1/3 程度）た発育枝（予備枝）を、棚面 45° に誘引し、翌年 7 月期に予備枝先端の新梢が棚面 30° の角度となるよう誘引する、または②冬期に先端を長く切り戻し（1/2 程度）た発育枝（予備枝）を、棚面 45° に誘引し、翌年 7 月期に予備枝と先端新梢を棚面に誘引し、予備枝先端にスコアリング処理することで、効果的に花芽を確保できる。

## 2. キーワード

なし、おりひめ、花芽着生、予備枝、新梢誘引、スコアリング処理

## 3. 試験のねらい

なし新品種「おりひめ」（平成 27 年 6 月 19 日品種登録）は、8 月上中旬に収穫できる極早生の青なしで食味が優れており、現地への普及拡大が期待されるが、果実を安定生産していく上で腋花芽の着生が少ない課題がある。そこで、腋花芽着生に有効な予備枝の管理方法を明らかにし、効果的な花芽着生技術を確立する。

## 4. 試験方法

平成 25 年と 26 年に農試場内果樹園の高接ぎ 8 年生「おりひめ」（試験開始(平成 25 年)時、中間台木「幸水」）1 樹に発生した発育枝を供試した。

〔試験 1（平成 25 年）〕処理区は、予備枝切り戻し程度（1/2、1/3）と夏期新梢誘引角度（棚面から 60°、30°）を組み合わせた 4 区（各区 10 枝）とした。処理枝は、2 月に予備枝切り戻し処理を行い棚面から 45° に誘引した後、7 月初旬に予備枝先端から発生した新梢の誘引処理を実施した。なお、予備枝基部から発生する新梢は果そう葉を残し適宜剪除した。

〔試験 2（平成 26 年）〕処理区は、夏期新梢誘引角度（棚面から 30°、0°）とスコアリング処理（有り、無し）を組み合わせた 4 区（各区 3 枝）とした。処理枝は、予備枝を 1/2 切り戻して棚面から 45° に誘引した後、7 月初旬に新梢誘引およびスコアリング処理を同時に実施した。なお、スコアリング処理は予備枝の先端から 3 cm 下に行った（写真-1）。

両年とも、催芽前および落葉期に予備枝長、予備枝径を、落葉後に新梢長、新梢径、新梢の腋花芽着生数を調査した。

## 5. 試験結果および考察

- (1) 予備枝の切り戻し 1/3 処理は落葉期の予備枝径が太く、予備枝部分の短果枝数や新梢の腋花芽数が多かった（表-1）。
- (2) 夏期の誘引角度 30°処理では腋花芽数が多くなったが、総花芽数に差はなかったことから、1/3 切り戻し 30° 誘引が花芽着生に最も有効だった（表-1）。
- (3) 新梢誘引角度およびスコアリング処理の有無で比較すると、スコアリング処理することで腋花芽数および腋花芽着生率が高い傾向だった。誘引角度は腋花芽の着生に差はなかった。なお、処理の違いにより落葉期の予備枝径、新梢長および新梢基部径に大きな差はなかった（表-2）。
- (4) 組合せでみると、新梢の腋花芽着生率は、0° +スコアリング処理で 68 % と最も高く、処理枝間の標準偏差が小さい傾向を示した（表-2）。
- (5) 以上のことから、「おりひめ」において予備枝を利用した 2 つの効果的な花芽着生方法を明らかにした（図-1）。

（担当者 研究開発部 果樹研究室 大谷義夫、櫛淵康平）

表-1 予備枝の切戻し程度、夏期の誘引角度の違いが「おりひめ」の花芽着生に及ぼす影響

処理区		催芽前				落葉期				
切戻し	誘引角度	予備枝長	予備枝径	予備枝径	短果枝数	新梢長	新梢径	えき花芽数	えき花芽	総花芽数
	°	cm	mm	cm	個	cm	mm	個	着生率%	個
1/2	30	54	8.9	12.1	2.4	70	8.3	3.4	20	5.8
1/2	60	58	10.2	13.1	3.4	92	9.7	2.2	13	5.6
2/3	30	80	11.0	16.5	7.0	94	9.6	5.3	27	12.3
2/3	60	82	10.3	19.4	8.3	111	11.0	3.3	14	11.6
1/2		56	9.5	12.6	2.9	81	9.0	2.8	16	5.7
2/3		81	10.7	17.9	7.6	103	10.3	4.3	20	11.9
	有意性 <sup>z</sup>	**	ns	**	**	ns	ns	*	ns	**
	30	69	10.2	14.6	5.1	84	9.1	4.5	24	9.6
	60	72	10.3	16.8	6.3	103	10.5	2.8	13	9.1
	有意性	ns	ns	ns	ns	ns	ns	**	*	ns

<sup>y</sup>分散分析により\*は5%、\*\*は1%で有意. nsは有意差なし.

表-2 予備枝の夏期誘引角度の違いおよびスコアリング処理の有無が「おりひめ」の花芽着生に及ぼす影響

処理区		催芽前			落葉期						
新梢誘引角度	スコアリング処理	予備枝長	予備枝径	予備枝径	新梢長	新梢基部径	短果枝数	腋花芽数	腋花芽着生率	総花芽数	総花芽着生率
°		cm	mm	mm	cm	mm	芽	芽	%	芽	%
30	有	42.3	9.5	14.2	92.5	9.9	1.0	14.5	54±42 <sup>z</sup>	15.5	52±34
〃	無	38.8	9.7	12.8	85.0	9.0	4.7	11.0	57±45	15.7	61±41
0	有	37.3	8.7	12.6	95.0	8.9	3.7	17.0	68±23	20.7	70±15
〃	無	42.5	9.3	14.9	116.7	10.1	3.3	9.3	32±12	12.7	36±13
30		40.2	9.6	13.3	88.0	9.3	3.2	12.4	56	15.6	57
0		39.9	9.0	13.7	105.8	9.5	3.5	13.2	50	16.7	53
	有	39.3	9.0	13.2	94.0	9.3	2.6	16.0	62	18.6	63
	無	40.7	9.5	13.8	100.8	9.6	4.0	10.2	44	14.2	48

<sup>z</sup>±標準偏差



写真-1 予備枝へのスコアリング処理 (予備枝先端に摘果鋏で形成層まで1周傷を付ける)

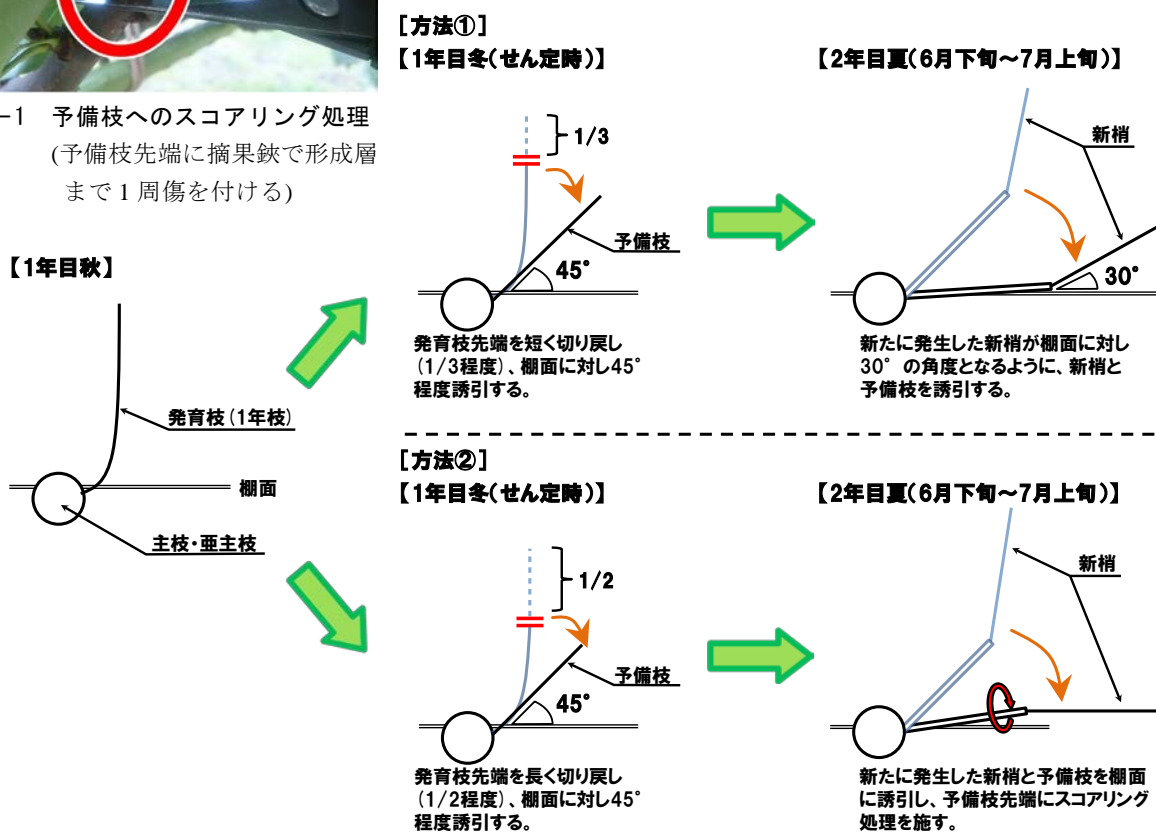


図-1 「おりひめ」の花芽着生方法